



大 船 山

日常と行事を両輪とした活動づくり……一日の成果は紙の厚さでも重なれば本になる

校長 細江 幸次

美しい桜の季節も瞬く間に過ぎ去り、ゴールデンウィークを楽しみに待つ時期となってきました。今年度は暦の関係で現在、個別懇談を行っている最中であり、明後日は授業参観・PTA 総会・学級懇談会が予定されています。年度初めの慌ただしい中でありながらご協力をいただいています。ありがとうございます。上矢作っ子のハツラツとした姿を見ていただき、有意義な懇談ができるよう準備を進めていきます。

前号でお伝えした「静けさづくり」とともに、上矢作小学校では「『日常』と『行事』を両輪とした活動づくり」に力を入れています。運動会や学習発表会等、学校行事はイベント的にとらえられる面がありますが、学校行事は「特別活動」という領域に位置付けられた教育活動の一部です。子どもたちが意欲的に参加し、楽しかった思い出のひとつとなるようにすることはもちろん大切ですが、それとともに教育活動としての成果や効果がなければならぬと私は考えています。そう考えると、学校行事は日頃行っている教育活動の成果の発表の場であり、自分自身や集団の成長や取組成果の確認の場であるといえます。

3月末に行った卒業式は2回の全校練習と2回の在校生練習を行っただけですが、日常の教育活動で培った力を活かし、厳粛で心のこもった雰囲気の中で卒業生を送り出すことができたと自負しています。私の小中学生の頃の卒業式練習というと、規律・礼・着席や立ち方・座り方の礼法指導の繰り返し、少しでも姿勢が崩れたり、話声がしたりすると注意の厳しい声が発せられ、場合によってははじめからやり直しという、今思い返してもただ辛いだけの取組が思い出されるだけです。それよりも、年間を通して、日常的に繰り返しやっていることの意味・意義を明確にして活動の目的や活用を明らかにして取り組んだ方が心身の負担は少なく、ほめたり励ましたりすることが多くなるのではないかと思います。式で行う規律・礼・着席は日常の授業の始めや終わりで、話し方や書き方は学習活動の中で指導して、スピーチ集会のような行事的な活動で意欲付けと成果を確認しながら行っています。それらを積み上げた成果が卒業式での姿につながっていると考えます。

また、修学旅行や社会見学、運動会のような行事においては日常的に行っている挨拶、集団行動、社会的ルールやマナーの遵守等の実践・確認の場になっていきます。また、各教科で培っている思考・判断・表現の活用場面もあります。

日常の学校生活で繰り返し学び、身に付けている力を行事の中で活かしていき、行事の中でうまく力を発揮できたことには自信をもち、不十分な点にはその原因を考え日常生活の中で再度鍛えていくサイクルをつくりあげることが子どもたちの健やかな成長につながっていくと考えています。



入学式でのひとつひとつの動きにも日常の成果が出ています